

発表順	発表課題	発表者		審査結果
		所属	氏名	
12	シカ被害と戦う	徳島森林管理署 流域管理調整官	柏木喜代幸	
13	みんなでまもろう三嶺の森 ーNPO・行政・大学の協働による 保全活動の事例ー	三嶺の森をまもるみんなの会 高知中部森林管理署流域管理調整官	押岡 茂紀 川口 文明	(財) 日本森林林業振興会会長賞
14	保育作業の省力化～下刈・除伐 作業の省力化の経過報告～	四国森林管理局 森林技術センター 森林技術専門官	鷹野 孝司	(社) 日本森林技術協会理事長賞
15	森林整備の推進に関する協定 について	香川森林管理事務所 調整官(業務) 流域管理調整官	古庄 弘英 伊藤 文男	
16	景観に配慮した資源林の搬出に ついて(最終報告)	四万十森林管理署 三原森林事務所森林官 黒尊森林事務所森林官 窪川森林事務所 係員 治山課治山第二係長	福山 敦之 猪迫 啓司 山下 茂樹 中尾 栄二	四国森林管理局 局長賞(優秀賞)
17	建設機械(小型バックホー)を 活用した基幹歩道の整備について	愛媛森林管理署 業務第二課 森林育成係長 業務第二課 係員	諸星 雄二 崎川 龍也	
18	森林の種類と植物および土壌	高知県立四万十高等学校 自然環境コース3年生	藤原 絵里 芝 千夏	四国森林管理局 局長賞(奨励賞)
19	大豊中学校相撲部 部室兼合宿 所製作	高知県立高知工業高等学校 建築科3年生	楠川 充敏 野本 大智 中越有紀子 山崎 美代 戸田 隆志 中平 力樹	四国森林管理局 局長賞(奨励賞)
20	関西育種場における第二世代精 英樹選抜の取り組みー四国森林管 理局管内のスギ・ヒノキ次代検定 林からの選抜ー ※特別発表	(独) 森林総合研究所 林木育種セン ター 関西育種場 育種課 育種技術係 主任研究員	増山 真美 山野邊太郎	
21	ヒノキ林の伐採が土壌からの温 室効果ガス排出量におよぼす影響 ※特別発表	(独) 森林総合研究所 四国支所 主任研究員	森下 智陽	
22	高知型低コスト木製ガードレ ールの開発(低コスト木製防護柵(構 造物用C種)の開発) ※特別発表	高知県立森林技術センター 資源利用課 主任研究員	東 博文	

各地のたより

地元中学生

「間伐体験」行う 〈ふれあいセンター〉



四万十町立昭和中学校では、四万十町の基幹産業である林業を体験することで、地域や自然環境に対する理解を深めるため毎年、間伐体験を行っています。

今年も、一二月九日、全校生徒二五名が四万十町内の伊豆ヶ谷山国有林で間伐体験を行いました。

当日は四万十森林管理署と十和森林事務所の応援を得て指導にあたりました。

まず、間伐の必要性や安全な作業方法について説明を行い、その後、職員の指導を受けながら生徒一人ひとりが伐採を行いました。

一年生はこの日初めて木を伐る生徒もいて、なか

なか思うように鋸を扱うことができず、何度も休みながら作業を行い、周囲からは「ガンバレ・ガンバレ」と声がかかります。

二・三年生は、これまでに何度か経験し、中にはとても上手に鋸を使って伐採する生徒もいました。

作業後の生徒の感想では、「木を伐るのはとても大変」「疲れた」「疲れたけどとても楽しかった」など様々でしたが、地元の産業や自然との関わりを持つことでその重要性などに関心を持ち、今後の学習や生活に役立てて欲しいと考えています。



初めて、鋸を使って間伐体験

クリスマスリース・ 門松ゲット大作戦 〈高知中部森林管理署〉



昨年一二月一九日高知県立香北青少年の家において、南国市・香南市・香美市在住の小学生及びその保護者二三名を対象にクリスマスリース、ミニ門松製作教室を開催しました。

今回は対象年齢が小学一年生からと低かったため、作製する前に、紙芝居で森林の働きについて理解を深めました。

その後、クリスマスリース作りコーナーでは、あらかじめ編んでおいたカズラにスギ・ヒノキ・モミ・アセビのうちから好みの葉を差し込み、輪を形作っていききました。これに色づけした松かさやリボンなどを飾り付け完成させました。

ミニ門松作りコーナーでは、三本の竹筒の周りにサ

クラやミズメの枝を一定の長さに切って並べ、麻紐で固定し、これにゴヨウマツやナンテンなどを飾って仕上げました。

作品完成後に回答いただいたアンケートには「ノコギリを使うのは難しかったけど作品づくりは楽しかったです」「リース作りとても楽しかったです」「森を大切にしたい」「山はいろいろな働きをしていることがわかった」などの意見があり、作品づくりの楽しさはもちろん、森林への関心を高める良い機会になったのではと考えています。



ミニ門松完成





四万十森林管理署

藤の川森林事務所

首席森林官 増永勝也

藤の川森林事務所は高知県西部、四万十市西土佐の四万十川本流と支流の広見川の合流地点に位置しています。

西土佐地域は、合流地点の江川崎を中心に各支流沿いに集落が点在し、約九一%を森林が占めるなど農林業を中心とした典型的な農山村地域です。

近年は、「最後の清流四万十川」のキャッチフレーズで四万十川がブームになり、夏場のキャンプ、カヌー等の川下りなどで多くの観光客が訪れております。

また、一〇月には、四万十川沿いを全国のランナー約一五〇〇名が駆け抜ける四万十川ウルトラ一〇〇キロマラソンのルートになっており、地域住民総出で参

加者のサポートや、応援を行い地域活性化の要因のひとつとなっています。

当森林事務所が管理する国有林の大半はスギ・ヒノキの人工林で、国有林と官行造林を併せ約二、七〇〇畝を管理しています。

管内国有林の特徴としては、一つには、シイ、カシを主とする広葉樹林の中にヒノキ、モミ、ツガの古木が点在する天然林からなる土佐堂ヶ森風景林があります。



堂ヶ森山頂(地蔵堂)

堂ヶ森山頂には、地蔵堂があり、古くから人々の信仰を集め「霊山・堂ヶ森」として地域の方々から親しまれており、毎年五月五日には、堂ヶ森祭りが開催

されます。

当日は、それぞれ三つの地域の方々がお堂のある山頂に集まり、餅まきや、女相撲大会等が行われています。また、堂ヶ森周辺の歩道には、主な樹木に樹木名板を取り付けてあり、森林環境教育のフィールドとしても活用しています。



ネイチャーゲーム

二つめには、「西土佐」郷土の森です。

地域の人々から親しまれてきた天然ヒノキの名林を後世に引き継ぐため、平成三年四月に「西土佐」郷土の森として、四万十市西土佐(当時、西土佐村)と四国森林管理局(当時、高知営林局)との間で保存協定が

締結されました。

区域内には、樹齢二〇〇〜三〇〇年、樹高三五m、幹周り三三三cmの地域の象徴ともいえる天然ヒノキがそびえ立っており、平成一二年四月には、林野庁が選定している「森の巨人一〇〇選」に選ばれ、『四万十松仙人』と名称が付けられ人々に親しまれています。



四万十の檜仙人

この郷土の森は、隣接する「若人の森」とあわせて、林内には歩道、休憩所が整備されており、森林浴などの散策を楽しむこともできます。

当森林事務所の業務内容としては、造林事業(ニホンジカ防護ネット柵修理等、除伐、保育間伐等)、林道維持管理、立木販売、境界管理、林野巡視等の事業を行っています。



レンタルバックホウによる林道修繕

また、レンタルバックホウによる林道補修の土木事業と生産・造林の請負事業が主体となっています。

特に、当森林事務所管内でも、ニホンジカによる、食害被害が深刻です。現状では、防護ネット柵等を使用して防いでいますが、シカの頭数制限も必要だと考えます。

最後に、首席森林官として、署の窓口的業務や、若手職員の人材育成など、大きな使命を果たしつつ、今後は、事務所職員が一体となり、地域に根ざした気配りがある職場を目指していきますよう頑張っていきたいと考えています。